活動報告

◆診 療 部

診療部長　田辺大朗

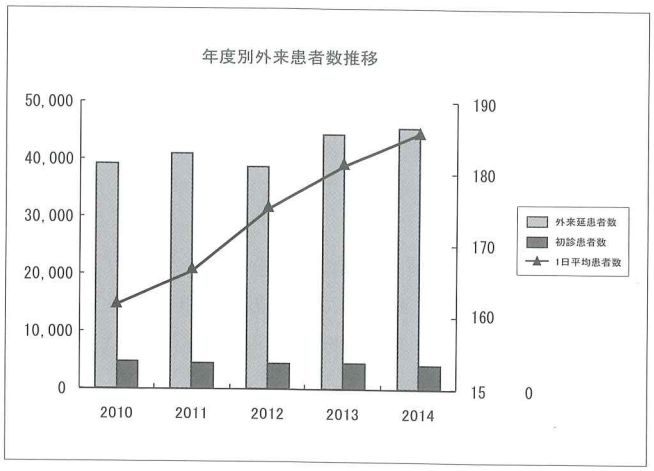
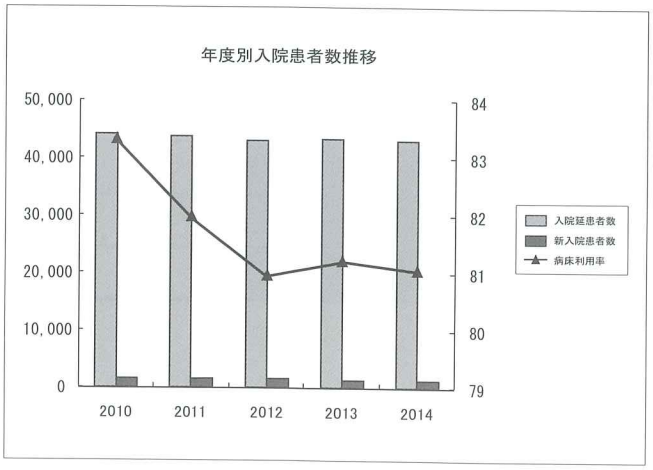
新たに町田医師と原医師を迎え内科領域（腎臓病／神経内科）の診療体制を充実させることができた。循環器内科・呼吸器科・消化器内科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来の特殊外来を設け、新患者数4,329名、再診患者数41,163名、年間の総受診者数は45,492名だった。救急外来は、365日・24時間体制で受診者は4,647名、救急車搬入では928名を受け入れた。ドクターヘリと連携し緊急性の高い重症患者はヘリによる３次救急への搬送を行っており、前年は11名を搬送した。

総入院患者数は43,031名で、科別入院患者数は内科7,996名、外科6,942名、整形外科8,134名、循環器内科5,696名、消化器内科6,655名、腎泌尿器科2,381名だった。

退院患者の年齢（平均値・中央値）は、当院が開院した2004年度は69.4歳と74歳だったが、2014年度は75.8歳と79歳で、この10年間でそれぞれ6.4歳と5歳上昇しており地域の高齢化を反映するものとなった。退院患者の疾病分類では、消化器系疾患が最も多く285名で、次いで循環器系の疾患が267名、損傷、中毒およびその他の外因の影響が259名、新生物217名、呼吸気系143名の順で、前年と比較して損傷、中毒およびその他の外因の影響と循環器系の疾患が逆転して循環器系の疾患が第２位となった。

前年度から外来化学療法室が本格的に稼働を開始し、利用者数は外科・消化器科・呼吸器科・泌尿器科で延べ232名が利用した。近年の抗がん剤治療の進歩は、手術後の治療成績の向上、治癒不能でも延命期間の延長などに大きく貢献している。当院でも化学療法による利益をできるだけ多くの方が享受できるように、無菌調剤室の導入や外来化学療法室の設置など環境整備に努めている。外来化学療法室の静かな環境での治療は好評であるが、利用者が集中する曜日では、待ち時間が長くなったりベッドが不足する場合があり、今後の運用改善・拡充を検討する必要がある。

在宅医療にもいっそう力を入れており、前年度から回復期リハビリ病棟に加え地域包括病床を取り入れ、在宅復帰率は88.8%（2014.10～2015.3）だった。また、居宅介護支援事業センターでは専任のケアマネージャーが前年度は221件のケアプランの作成を行った。訪問リハビリテーション数は2,815件で、前年の1,550件より大幅に増加した。また自宅での療養を希望される患者のために訪問看護ステーションと連携し訪問診療を行い、在宅での看取りも4件経験している。地域の高齢化が年々進む中で、独居あるいは老老介護となっている方達でも自宅で安心して暮らせるよう病院としても関係機関との連携を深め支援を行っていきたいと考えている。

済生会の基本方針である生活困窮者への生活全般の支援をMSWが中心となり取り組んでいる。2014年度は無料・定額医療は5.93%で、10%を目標として活動している。

研修医を迎えるようになり４年目となったが、前年は済生会熊本病院に加え、済生会横浜市南部病院から１名研修に来院した。１ヵ月の研修期間であるが、人口減少、地域高齢化、一次救急から在宅医療まで幅広く経験してもらい、各研修医にとって医師として幅広い視野を持つことで今後の成長の一助となるような研修を心がけている。